

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信



発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム VOL.18 2012年 9月号

文責：寺下 美智子・玉田 末明 編集：小木曾 理佐

こんにちは。今月はリハビリテーション科の二人が担当です。どんな記事にするのか迷っていたのですが、最近こんなニュースを目にしましたので、リハビリとは直接関係ないのですがご紹介したいと思います。

がん患者、4人に1人が退職 厚労省調査

がんと診断された時に働いていた人のうち4人に1人が退職していたことが、厚生労働省の研究班の調査で分かった。がん治療の進歩で生存率は高まっているが、働きながら治療を続けられない場合も多い実態が浮き彫りになった。調査結果によると、診断後に退職した人は 23.6%。このうち再就職したのは全体から見ると 13.9%で、9.7%は再就職していなかった。診断後も同じ部署に勤務していたのは 55.2%で、異動した人は 13.1%。退職・異動の理由は約4割が会社の指示だった。診断後に個人の収入が減った人は 45.0%で、世帯としての収入が減ったとの回答は 46.6%に上った。

働く世代のがん患者さんにとって治療と仕事の両立は大きな課題となっています。退職することになれば、「生きがい」を失い、収入が減り、リハビリの観点から言えば活動性も低下していき、筋力・体力の低下などが懸念されます。職場や医療者との連携がとれるように、今後システムの改善が必要となりそうです。民間の企業でも就労支援に取り組んでいるところがあると聞いています。また、厚生労働省はこのことに対して大都市圏の病院に公共職業安定所(ハローワーク)の職員を派遣して就労支援をすすめる方針を決めたそうです。就労支援事業は大都市圏の「がん診療連携拠点病院」と協力し、まず5カ所程度で先行実施し、患者さんへの就労支援のデータやノウハウを蓄積した上で全国に広げることを検討していくそうです。このような流れの中で、我々リハビリ技師も何らかのかたちでサポートできるように取り組む必要があると思っています。

平成24年度 岐阜県東濃地域 緩和ケア研修会を行いました。

9月8日9日に医師を対象とした緩和ケア研修会を行いました。週末の1日半を大変過密なスケジュールで研修していただきました。参加されました 23名の医師の皆様は大変お疲れ様でした。そして、研修会の運用を支えていただいた院内・院外の 27名のスタッフの皆様、ありがとうございました。



10月の講演会予定

第2回 緩和ケア講演会

日時：10月4日 18時～19時半

場所：中央診療棟3階講堂

内容：『看護専門外来の紹介』（認定管理者：柘植 容子）

（仮）『終末期における嚥下障害へのケア』（摂食・嚥下認定看護師：二村 洋代）

（仮）『終末期における創傷ケア』（皮膚・排泄ケア認定看護師：三宅 規子）

（仮）『がん患者とその家族へのケアー相談外来の事例よりー』

（がん看護専門看護師：山本 知枝子）

